



# 白銀

**200名の会員、100名のメイト読者を目標そう！**

新日本スポーツ連盟神奈川県スキー協議会  
横浜市神奈川区神奈川2-14-16トリクビル3F  
Tel045-534-5557 Fax045-534-5554  
発行責任者: 杉田 厚  
編 集: 古屋仁・吉越貴幸・北村理・田中健  
Email: mail@kanagawaski.org  
URL: <https://kanagawaski.org>

## 第2回クラブ代表者会議

### ～コロナ禍を乗り越えスキー協の発展を～

スキー協議会会長 杉田 厚

県の定期総会を1か月後に控えた6月3日、第2回クラブ代表者会議を開催しました。参加は全9クラブから12名でした。

例年は、1年間のクラブ行事・運営・会員加入などの状況を共有し、来季の活動に生かすことを目的に開いているものですが、今年は昨年が続いて「コロナ禍のなかのクラブ運営について」をテーマに加え行いました。

最初に、杉田会長から県スキー協の今期の取り組みを以下の5項目に絞って報告

- ① コロナ禍で安全・安心の県行事に努力、しかし大半の行事が中止に。
- ② 新型コロナウイルスに対する各クラブの対応は今後に向けて貴重な財産。
- ③ スキー行事の再開・発展に向けた来季の方針を。
- ④ クラブの活動の活性化が新会員を迎える鍵。
- ⑤ 指導員が不足、養成に力を。

その後、各クラブより以下の3項目に渡って意見交換しました。

- ① クラブ行事への新型コロナウイルスの影響と、それを乗り越える工夫、
  - ② 新規加入者を迎えた経験、
  - ③ 指導員養成のクラブでの状況、
- の3点に渡って意見交換しました。

結果としては、

- 新型コロナウイルスの影響では、会員の命と健康を重視する立場からクラブ行事を中止（悠遊SC、だ이스キー、横浜モルゲンロート）
- 泊りを避けて行き先を変更して日帰りスキーで実施（DSSC）
- 月1回のペースで実施（横須賀スノードルフィン、SGRT）
- 月1回の行事を入れたが、昼食・バス移動などを考えスキーは自粛し新年会は実施（エルベ）
- クラブ行事は中止し有志参加の形で（逗子マリノ、悠遊SC、横浜モルゲンロート）
- 3月からようやくクラブ行事を再開（スノーブリーズ）

など、多くのクラブで何等かのマイナスの影響を受けていました。

それは、新会員獲得にも表れ、SGRTは、新入会2名、復活1名で、世話好きなメンバーが加入したこと







います。予約がいっぱいになっているところもあり、次の案内（予約枠）を待つ状態です。

また、東京（大阪）で大規模接種センターが開始されました。５月３１日から６月６日まで神奈川からも接種が受けられることになっています。これとは別に横浜市、川崎市などでも大規模接種センターが自治体で計画されていますが、会場まで遠い、インターネット予約が大変など問題もありそうです。

副反応も話題になっています。コロナワクチンの接種（注射）は筋肉注射で、インフルエンザなどの皮下注射とは違いますが、接種されたときの感じはそんなに変わりはありません。

翌日以降、接種したところが腫れたり、痛むことはあるようです。倦怠感（だるい症状）などもあるようです。

このほか、ごくまれにアナフィラキシーと言って激しいアレルギー反応を起こすことがあります。これは接種直後から15分くらいの間にじんましんや呼吸困難などの強い反応が現れることを言います。滅多にあることではないこと、きちんと対処すれば命に関わらないと言われ、接種会場に医師がいて対処する備えがあるので心配ないとされています。

コロナ対策では、マスク、会食を避けるなど、うつらない、うつさないの対策も大変大事です。これも忘れないでください。

ワクチンが行き渡るまで、まだ時間が掛かりそうです

※ワクチン接種については、お住まいの自治体の案内を必ずご確認ください。

~~~~~

## 伊勢原田中ファームを覗いてみよう

～ DSSC所属 田中指導員のほんわか農業その① ～

D S S C 田中 健

コロナが未だ収束せず・・・スキーも遠のき・・・そんなストレスの中、心を少しでも穏やかに明るく前向きに。

紙面を通して皆さんにお届けする、ナチュラルセラピーのコーナーです。

### 【 自己紹介 】

伊勢原市日向在住。元郵便局金融部門担当。

訳あって今は自由なファーマーをしています。

若い頃からアレルギー体質で、食品添加物や農薬などに興味がありました。食品偽装やジャンクフード、種子法からモンサント企業など、食の安全や食品を取り巻く環境を知り、「えーい！自分で作っちゃえ」ときっかけは単純！現在、田んぼ5反・畑1反ほどで（1反は300坪。うーん想像できますか？）、無農薬・無化学肥料にこだわって栽培しています。

そんな田畑でコロナウイルスとは無縁の日常をお届けします。

【野菜編】

野菜の苗は自分で作ります。ホームセンターなどで売っていますよね。

でも数が多いので買ったら大変。「小さい種から、こんなに大きくなるのかよ」と我が子を育てている気持ちになります。



① 種

苗作りは2月、3月から始まります。こんな感じ。

他にも、インゲン・枝豆・ゴボウ・おかひじき・ジャガイモ・里芋・オクラ・レタス・トウモロコシ・ニンジン・大根・長ネギ・かぼちゃ・スイカ・玉ねぎ・ニンニク・キュウリ・モロヘイヤなどまだあるが全部書いたら大変！



② 双葉が出た種



③ 本葉が出た



④ 売っている苗のできあがり

## 【お米編】

以前通った研修先から、有機種粳（コシヒカリ）を購入し、種子消毒（温湯）など幾つかの行程を得て種まきします。

培土も有機認証対応のもの。

去年は、斉藤上級指導員も手伝ってくれましたが、腰が悲鳴を上げる作業です。

種まきは60gと薄蒔きで、成苗（4.5葉）まで育ててから田植えします。

慣行（一般）栽培では種子消毒に農薬、培土の中にも農薬を箱160g～200g蒔くので病気になりやすく、稚苗（2.5葉）で田植えします。



① 種まき



② 発芽したところ



③ プール育苗の様子



この記事が出る頃には田植えは終わっている頃でしょうか。

毎年、なんちゃって観光農園をしていて、田植え体験や収穫体験をしてもらっています。

出来る時期は限られていますが、希望があれば対応しますよ。



3 月の菜の花畑

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

## クラブの垣根を越えて

横浜モルゲンロート S C 宮川 秀久

今期はコロナウイルスに伴う緊急事態宣言などもあり、満足に活動できなかったクラブも多かったのではないのでしょうか？

私たちの横浜モルゲンロート S C も例外ではありません。

しかしこんな時だからこそ知恵を絞って活動を継続していくことが大切なのではないのでしょうか？

クラブ行事ができなければ有志で！

クラブ単独でできなければ、複数クラブ合同で！

また、他種目クラブとのコラボ企画というのも有りだと思います。

横浜モルゲンロート S C では、今季、神奈川ウォーキングクラブとのコラボ企画として『ヨセミテ国立公園バーチャルツアー』を実施し、たがいに交流を深めることができました。

スキーヤーは山歩きを、ハイカーはスキーやスノーボードをというように互いの趣味を広げる機会でもあり、また、将来的なクラブ員獲得のチャンスとなるかもしれません。

こういう時だからこそクラブの垣根を越えた活動を展開してみませんか？

### ◆編集後記◆

7月23日まであと65日（執筆日において）東京オリンピック・パラリンピックは開催出来るのだろうか。COVID-19は未だ世界流行が続いている。

日本のワクチン接種率はまだ2%という状況。変異種も次々と生まれていて、現在のワクチンが効かなくなる可能性も指摘されている。

そのような状況の中、世界のアスリートから危惧するコメントが相次いでいる。「公平な条件の下で選手が五輪まで到達できない」「今の状況で同じ時期に一つの場所に集まるのは最悪」「世界の人々が楽しめない状況で開催するべきではない」「練習さえ困難な国・選手もいる」・・・どれだけの国の選手がオリンピックに参加出来るのだろうか。全ての選手に公平なオリンピックと言えるのだろうか。強行しようとするのは、事実上の商業五輪と言える弊害ではないだろうか。オリンピックとは何なのだろうか？今回のウイルスによって、立ち止まって考える機会となったと思う。

早くこれまでの日常が戻ってくることを願います。  
(タムチョー)